

三條南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



2011. 2.28

No.1986
No.28



出席率	会員50名中33名
先々週の出席率	89.13%
先週の メイクアップ	2/23 新潟7RC合同例会へ 葺澤喜一郎君 2/23 三條RCへ 星野健司君 西巻克郎君 野島廣一郎君 佐々木常行君 2/26 社会奉仕委員長松ナ（上越）へ 赤塚 寧君 野中 悟君 2/27 ガバナー連絡会（新潟）へ 馬場信彦君 葺澤喜一郎君



会長挨拶

三條南ロータリークラブ 会長
大溪 秀夫

皆さん、こんにちは。

2月23日は、国際ロータリーの創立記念日であります。私が言うまでもなく、1905年（明治38年）の2月23日に、弁護士のポール・ハリスが3人の友人（石炭商シルベスター・シール、鋤山技師ガスターバス・ローア、仕立屋ハイラム・ショーレー）と共に、シカゴで、寛容と友情を求めて、初会合を開いたのがロータリーの始まりと言われております。後程、馬場パストガバナーよりお話がありますので、よろしくお願いたします。

本日は、21世紀の脳科学が挑む、最も困難で魅力的な謎である「意識」について“Newton”2月号を参考に話してみたいと思います。

＜「意識」に関する、様々な概念＞—脳科学者ラマチャンドラン博士による

「意識」とは

意識の定義は研究者によって様々であり、共通の定義はありません。大ざっぱに言えば、意識とは「自分がどういう状況にあるかをわかっている状態」のことです。例えば、「無意識の行為」といえば、「自分がそれを行っていることがわかっていない行為」のことです。意識は極めて主観的な精神現象なので、科学の対象になりえないと長年みなされてきました。しかし、脳内の現象を客観的に調べる手法の向上に伴って、近年では意識の神経科学的な（或いは物理的な）メカニズムの解明に挑む科学者が現れ始めています。一方で、実在するのは神経細胞の活動だけであり、意識は一種の「錯覚」にすぎないと主張する科学者もいます。

「自由意志」とは

自由意志とは「自分の行動を自分で決めること」であります。

四つのテスト

言行はこれに照らしてから—

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるか どうか



国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミス [アメリカ]
 第2560地区ガバナー 東山 昶也 [高田]
 第4分区AG 葺澤喜一郎 [三條南]
 会長 大溪 秀夫
 幹事 野崎 正明
 S A A 平松 修之

事務局 〒955-8666 三條市旭町2-5-10

三條信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

自由意志を担う脳のメカニズムは、その多くは未解明です。例えば、散歩中、分かれ道があったとします。左右どちらを進んでもよかったのですが、たまたま、左の道を進んだとしましょう。この時、「左の道を選んだのは自分であり、誰かにあやつられたわけではない」と考える人は、自由意志の存在を認めていることとなります。一方、「全ての物理現象には因果関係があり、過去の出来事によって未来の出来事は決定される」という立場に立てば、「自分の決定」もまた、過去の出来事によって縛られており、人間の自由意志が入り込む余地はないこととなります。こうした立場から、自由意志の存在を認めない科学者もいます。

「自己」とは

自己とは言葉どおり、「自分」あるいは「私」のことです。日々、朝日の眩しさを感じ、歩き、考え事をするその主体が自己であります。自己は、意識やクオリアが生じるまさにその舞台であり、これらの概念と密接に関連しています。自分の肉体が「誰かのもの」ではなく、「自分のもの」だと感じる心の働きも自己に含まれます。人間が社会生活を営む上で、自己と他者を区別することは重要です。自閉症の研究者で知られるアメリカの精神科医によれば、自閉症の患者は自己と他者を区別することが困難だと言います。ラマチャンドラン博士らはこの点に着目し、自己の概念を生み出す脳のメカニズムに自閉症の研究からアプローチ出来るかもしれないと考えています。

「クオリア」とは

クオリアとは、赤いリンゴを見た時に感じる「赤さ」や、レモンを絞った時の「さわやかな香り」など、そのあらゆる全てを他者に伝える事が困難な、感覚的な質のことです。日本語では「感覚質」と訳されることもあります。元々哲学上の概念ですが、近年では「神経細胞の活動の組み合わせから、どうやってクオリアが生み出されるのか」という、「クオリア問題」に挑む研究者が現れています。ラマチャンドラン博士は、自己がなければ、クオリアは生まれず、また、クオリアがない自己も考えられないことから、自己とクオリアは表裏一体の関係にあると論じています。

最後に、ラマチャンドラン博士は、インドで育ち、アメリカで科学者として活躍していますが、「ヒトの存在そのものが奇跡であり、最大のミステリーである」と締めくくっています。

幹事報告



野崎 正明 幹事

地区青少年交換委員会より 2011年夏期交換学生募集のご案内

- ・交換先 ドイツ 1810 地区
- ・資格 ① 派遣時、高校または大学在学中の者（含 予備校生 専門学校生）
② 中学 3 年程度の英語をマスターし、英検 3 級程度の実力が望ましい
③ 心身ともに健康、健全であること
④ ドイツ交換学生の受入れ家庭となること
- ・申込み方法 4 月 3 日までに申請書を最寄 RC へ提出
- ・派遣、受入 2011 年 8 月中旬出発 約 3 週間ドイツでホームステイ
2011 年 7 月中旬より約 3 週間受入れ
- ・派遣学生が負担する費用 渡航に関する費用 約 20 万円

ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

～ 2月28日 11,000円
今年度累計 532,000円

大 溪 君 2月23日はロータリーの創立記念日でした。後程、馬場パストガバナーにお話していただきます。よろしくお願いたします。

野 崎 君 馬場パストガバナー、本日は卓話「ロータリーの綱領について」ご指導、よろしくお願いたします。

馬場(信)君 本日は卓話をします。
こなれていないので、右へ行ったり、左へ行ったりでご迷惑をおかけします。テーマは、「ロータリー創立記念日で考えなければならないこと & ロータリー綱領について」です。
よろしくお願いたします。

西 巻 君 馬場パストガバナー、本日の卓話ご苦労様です。BOXに協力。

荏 澤 君 馬場パストガバナー、昨日はガバナー連絡会ご出席ご苦労様でした。本日の卓話、またごろうさまです。
よろしくご指導をお願いたします。

安 達 君 BOXに協力。
都合で早退させていただきます。
馬場パストガバナー 申し訳ありません。

熊倉君、田中君、銅冶君、馬場(一)君、渡邊(久)君
BOXに協力致します。

「ロータリー創立記念日で考えなければならないこと & ロータリー綱領について」

馬場信彦パストガバナー
(2010-11年度
地区研修リーダー)



私のガバナー年度である、2008-09年度に「PETS」「地区協」「地区大会」「クラブ例会」などで、また、これらに準ずる会合の際は、「ロータリーの綱領」を朗読や唱和と、握手タイムをお願いした。現在、わが三条南では、例会次第に、「綱領唱和」「三条市民憲章唱和」「握手タイム」の3点セットを実行し、クラブ例会会場が和気藹々となり定着している。

私は、三条南の創立会員で、会員歴42年間になるが、「綱領」の朗読・唱和は、2008-09年度まで一度も経験がなかったし、歴代ガバナーからも、「ロータリーの綱領」についてのお話を聞いたことがなかった。しかし、毎年各クラブで作成される『クラブ現況報告書』には、我々ロータリアンが唯一拘束を受けるクラブ定款が記載されている。そこには「ロータリーの綱領は最も大切なものである」と書かれている。

しかも、「会員は綱領に表明されたロータリーの原則を受諾し、定款細則の規定を遵守し、定款細則の写しを受領しなかったことを理由として、その遵守を免れることは出来ない」と明記してあり、はっきりと釘を刺されているのである。

『ロータリーの友』2011年2月号の26-27頁に、「ロータリーの和訳について」と題して掲載されているので、ぜひ、精読をお願いしたい。この記事を書かれた鳥居滋氏は私と同期ガバナーで、彼はガバナー協議会で綱領等翻訳問題調査研究小委員長をお務めと、昨年11月に行われた「ロータリー研究会」第6セッションで、あらゆる角度から綱領の翻訳問題を1年掛けて検討され、その成果が発表された。

鳥居委員長は、ガバナー就任早々、クラブ公式訪問の何箇所かで、「綱領」を毎回、クラブ例会で出席者全員により唱和しておられるクラブがあった。その折に、現在の「綱領」は分かりにくく何とかならないかと、質問をいただいたことがきっかけで、「綱領」をもっと分かりやすくするために調査研究を始められた。昨年7月、全国34地区2309クラブへのアンケート調査から始まった。同11月30日現在では、1582クラブから回答があり回収率は68.75%となった。当地区2560地区は、57クラブ100%の回収で、東山ガバナーの強力なリーダーシップには驚嘆した。もう一地区100%回収は2840(群馬県)地区であつたことを付記しておきたい。

現在、ロータリアンが拠り所としてなければならない「ロータリーの綱領」は、どのようにして生まれたのか。その変遷について以下述べてみたい。

ロータリー要綱とロータリー綱領については、定款と細則は連合会とクラブが守る規則と手続を定めたが、「ロータリーとは何か？ロータリアンは何を信じているのか？」という基本的な問いかけに答えるものではなかった。こういった中心的価値観は、もともと「ロータリーの宣言」と呼ばれたスピーチが、後に「ロータリーの綱領」にまとめられたものである。

シアトルロータリークラブがその信条を定義する要綱を作成したのは、ほぼ発足の当日であった。同クラブのジェームス・ピンカム、アーネスト・スキル、ロイ・デニーの3名はクラブの方針声名書に手を加え、ポートランドで開催された1911(明治44)年の第2回年次大会で、「ロータリーの要綱」案として発表された。5段階からなる声明文は、会員の職業分類制度、公明正大な商取引の公約、奉仕が全ての仕事の基礎であるという考え方を提示された。要綱は、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉で締めくくられていた。

ロータリーの要綱が採択された1912(明治45)年8月、代表者たちは連合会の「綱領」も承認した。1906(明治39)年に採択されたシカゴロータリークラブの最初の定款には、次の2つの綱領があった。

1. 本クラブの会員の事業上の利益の増大
 2. 通常社交クラブに付随する親睦およびその他の特に必要と思われる事項の推進
- シカゴクラブは年内に3つ目の綱領を付け加えた。
3. シカゴの最大利益の推進、および市民の誇りと忠誠とを市民間に広めること。

1910(明治43)年の全米ロータリークラブ連合会の第1回大会に出席した代表者たちは、次の新組織の5つの目標を設定した。

1. クラブの新設
2. 全クラブの共通の利益の推進
3. 市民としての誇りと忠誠心の奨励
4. 高潔なビジネス方法の推進
5. 個人会員の事業上の利益の増大

奉仕の理想への関心が高まるにつれて、ロータリアンは他者を援助する活動への関与を高めていった。

1915(大正4)年のサンフランシスコ大会で、代表者たちは第5の目的を拡充し、第6の目的を加えた。

5. 地域社会の公共の福祉に対するクラブ会員の関心を高め、かつ、市、商工業の発展のために他の人々と協力すること
6. 同僚や社会一般のために奉仕したいという意欲を起こすよう会員を鼓吹すること

1918(大正7)年、国際連合会は再び改正を行い、綱領は4点にまとめられた。しかし、クラブとプロジェクトが急激に増大したため、この綱領は間もなく不適切となり、再び6点から成る綱領に改定された。その後、ロータリーは繰り返し、組織自体の定義を微調整し、1951(昭和26)年にその最も重大な最後の変更が行われた。ロータリーには「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」という実際ただ一つの綱領があると決定されたのがこの時であった。この崇高な目的を固く前面に打ち出したあと、ロータリアンが綱領を成就する4分野が次のように説明された。

- 第1 奉仕の機会として知り合いを広めること；
- 第2 事業および専門職務の道徳的水準を高めること；
あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること；
そしてロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること；
- 第3 ロータリアンのすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
- 第4 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。

ロータリー105年の歴史の中で、時代やその背景の変化に伴って、定款や細則の文言は変わってきた。今後も時代の変遷の中で進化していくであろう。しかし、105年間、受け継がれてきたロータリーの心、精神を高めて行きたいものだ。

引用文献

『ロータリーの友』20011年2月号 『ロータリー日本50年史』 『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』
『小学校でお話する「ロータリーの綱領」』 故佐藤千寿〔第2580地区PDG〕

下記に、1)「ロータリーの綱領」原文、2)日本文、3)意識文を掲げておくので、さらに「ロータリーの綱領」を身近にし、より理解を深めて欲しい。

1) 「ロータリーの綱領」原文

— OBJECT OF ROTARY —

The Object of Rotary is to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage and foster:

First. The development of acquaintance as an opportunity for service;

Second. High ethical standards in business and professions; the recognition of the worthiness of all useful occupations; and the dignifying of each Rotarian's occupation as an opportunity to serve society;

Third. The application of the ideal of service in each Rotarian's personal, business, and community life;

Fourth. The advancement of international understanding, goodwill, and peace through a world fellowship of business and professional persons united in the ideal of service.

2) 「ロータリーの綱領」日本文

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成することにある：

1. 奉仕の機会として、知り合いをひろめること；
2. 事業および専門職務の道徳的水準を高めること；
あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること；
そしてロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位有らしめること；
3. ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活及び社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；
4. 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。

3) 「ロータリーの綱領」意識文

どんな職業でも、“利益は奉仕に対するご褒美として与えられるものでなければならない”というのが、ロータリーでいう「奉仕の理想」である。だから、そういう理想を、さらに一層高めて、これを世界中に広げていくのが、私たち会員の目的であり、そのためには、特に次に述べる4つのことが大切である。

- (1) こういう奉仕の理想に賛成してくれる仲間をたくさん増やすこと。
- (2) だれから見ても道徳的に怪しまれることがないように、誠実に良心的な仕事をする事；
職業上の取引は対等であって仕事の上下の差はない—いつもお互いに相手の立場を尊重し感謝すること；
社会に奉仕するための職業なのだから、自分の職業は品位あるものでなければならない。
- (3) 私たち会員は個人的な日常生活でも、職場でも、また広く社会的な関係でも、常にみんなのためになるかどうかを考え、奉仕の精神で行動しなければならない。
- (4) こういう奉仕の理想を身に付けて、それぞれの仕事に精出している世界中の人々と友だちになり、相手の国のことも良く理解しあって、戦争のない平和な世界をつくること。

以上



国際ロータリーニュース

2011年 2月 15日

インドの女性の自立を支援



ジェイフル (Jhool) により寄贈された新しいミシンを調整する仕立屋のディーパさんを手伝うハンナ・ウォレンさん (右)

2005-06 年度ロータリー財団国際親善奨学生としてインドに留学したハンナ・ウォレンさんは、当時、児童労働者の女の子に服を買うお金をあげました。その時彼女は、その子を助けるために、もっとほかに何かをしてあげたいと願ったことを覚えています。

米国イリノイ州ラブス・パーク・ロータリー・クラブの支援を受け、国際親善奨学生として留学中だったウォレンさんは、ヒンズー語を勉強するかたわら、現地の読書のできない女性たちに個人指導を行いました。

2008 年、ウォレンさんは、Royal Society for Asian Affairs によるプログラムの一環で、マドヤパラデシュのサリー職工の写真を撮影するためにインドに戻りました。職工の女性たちが、手織りされたサリーを身にまとった姿

を写真に収めたかったウォレンさんですが、その誰一人としてそのような美しいサリーを買うお金がないばかりか、原材料を入手することすらできなかったのです。このことを知ったウォレンさんは、その女性たちに、原材料を購入し、サリーを作る資金を提供しました。初めて自作のサリーを身に着けた女性たちの姿を写真に収めたウォレンさんは、「彼女たちは本当に綺麗で、誇り高く見えました」と話します。

この経験をきっかけにウォレンさんは[ジェイフル \(Jhool\)](#) という、公正取引を推進する団体を創設しました。マヘジャールに本拠を置くこの団体は、恵まれない女性たちに研修や材料を提供し、作った手織り物を国際市場で販売することで、自活への道を支援しています。

2010 年、1 万 2,500 米ドルのマッチング・グラントで、ジェイフルにはた織り機やその他の設備、約 700 キロ相当の布や糸が提供されたほか、広報やウェブサイトデザインなどの資金がまかなわれました。また、このマッチング・グラントは、はた織り、縫い物の研修も提供しました。この補助金は、ラブス・パーク・ロータリー・クラブとその他 4 つの第 6420 地区のクラブによって支援され、そのうち 7,500 米ドルが、地区財団活動資金 (DDF) より提供されました。第 3040 地区のカーゴーン・ロータリー・クラブも資金提供に協力しました。

第 6420 地区のアニータ・パピッチ地区ガバナーは、「ハンナを介して、私たちは恐らく訪れることのないだろう地域の女性や子供たちの生活を支援する機会に恵まれました」と話します。また、第 3040 地区のナリーニ・ランジャー地区ガバナーは、「ハンナの活動は、女性職工に力を与えるという立派な活動であるばかりでなく、マハシャワールの手織物を後世に伝えていく活動でもあるのです」

織物にはリサイクルの材料を使用

シカゴに本拠を置く Mata Traders などの配給元やデザイナーと協力することで、ウォレンさんは女性たちが作るドレス、スカート、ハンドバックなどを直接販売するルートを確認しました。織物には、リサイクルの材料も使用され、例えばスカーフは、Pratibha Syntex から寄贈された生地の切れ端を使用しています。

ジェイフルは、高齢の女性や身体障害者を支援する団体「チェタニヤ・セワ・サンシャン」に、利益の 20% を寄付しています。ウォレンさんによれば、300 人以上の女性たちが、2 つの団体から恩恵を受けているということです。

マッチング・グラントに加えて、ジェイフルはマハシャワール・ロータリー・クラブやその他の団体からも支援を受け、これまで 2 度のファッションショーを開催しました。また、同クラブは、2,000 米ドルを寄付しただけでなく、近郊のマンプールに新しい研修施設を建設するための土地も提供しました。

同クラブ会員であるアロク・ジョシさんは、「人道的支援や、貧困解消への支援により、ジェイフルのプロジェクトは大きな影響を与えています」と話します。

ウォレンさんは、「国際親善奨学金がなかったら、今私がこの仕事をしていることはなかったでしょう。ジェイフルのプログラムと同様、ロータリーの奨学金は、親善のための投資なのです」



Birthday



誕生日

3月のお祝い



会員誕生 2日 谷 晴夫君 20日 馬場眞樹君 25日 齋藤嘉一君

夫人誕生 4日 田代恵美子(徳太郎)さん 5日 平松貴子(修之)さん
18日 広岡頼子(豊樹)さん 31日 西巻富紗(克郎)さん

結婚記念 2日 馬場輝仁君・廉子さん 14日 広岡豊樹君・頼子さん
16日 安達 裕君・範子さん 21日 坪井正康君・恭子さん
28日 渡邊光郎君・ノリさん 30日 馬場一敏君・静子さん

* おめでとうございます *

表紙について

横山 操 よこやまみさお(新潟県出身)
1920-1973

■「蒲原落雁」(越路十景のうち)

1968(昭和 43)年作
山種美術館蔵

ロータリーの友 1994 年2月号表紙より

三條南ロータリークラブ週報

2011. 2.28

No.1986 No.28